



瑞二だより

教育目標

自立・貢献・生き抜く力

発行者 江戸川区立瑞江第二中学校

校長 横枕 耕史

発行所 東京都江戸川区瑞江4-54-1

発行日 令和8年(2026年)9月1日

第562号



防災の日に寄せて

9月1日は関東大震災に由来する「防災の日」です。本日実施いたしました「保護者引き渡し訓練」へのご協力に感謝申し上げます。

さて、この夏もまた、私たちは自然の脅威を深く思い知らされることとなりました。熊本地震、千葉県・石川県・福井県での記録的豪雨、ネパール・中国大規模土石流など、国内外で甚大な被害が生じました。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、これらの災害は決して遠い世界の出来事ではなく、私たちが生きる日常のすぐ隣に潜む現実であることを痛感させられます。

未曾有の災禍を前にしたとき、あらゆる防災の原点となるのは自らの身を守る「自助」の決意です。ご家庭におかれましても、家具の転倒防止対策や避難経路の再確認はもちろんのこと、日頃の買い置きを少し多めにして消費した分を買い足していく「ローリングストック」の実践など、生活の中に根ざした備えを今一度見直していただきたく存じます。そして、自分の安全を確保した上で求められるのが、互いに支え合う「共助」の心です。災害発生時、公的支援である「公助」が到着するまでの間、地域を支える頼もしい一員となるのが中学生に他なりません。

本校では生徒たちに対し、単に保護される存在にとどまらず、避難所での声かけや物資の搬送、正確な情報の共有など、自立した存在として地域社会に貢献する志を育む防災教育を進め、何事にも「貢献」できるボランティア・マインドを育てていきます。本日の引き渡し訓練が、ご家庭や地域において非常時の役割や命の尊さについて語り合う機会となれば幸いです。大災害時の「共助」の主役となり得る中学生が、高い志を持って社会に貢献する大人へと成長していくためには、学校・家庭・地域が固く手を携え合う教育の基盤が不可欠です。

開校六十周年の節目を刻む二学期

開校六十周年記念式典を11月2日に挙げる誠に意義深い節目の二学期がスタートしました。昭和、平成、令和と六十年の本校の歴史を振り返る中で、地域の学校として先人の先生方や地域の皆様が脈々と受け継ぎ大切にされてきた歴史と伝統の重みを感じております。

本校の教育目標「自立・貢献・生き抜く力」は不易の理念を時代に合わせ変容させています。今年度はその「生き抜く力」の育成を目指し「プレゼンテーションを通じた表現力の育成」を研究主題に掲げ、校内研究を進めています。

変化が激しく予測不能とされるこれからの時代において求められるのは、蓄積した知識を活用し、自らの考えを論理的に組み立て、言葉に責任を持って誠実に発信する「話す力」に他なりません。同時に、他者の多様な意見に耳を傾け、対話を通じて互いの知恵を昇華させていく協働的な姿勢こそが、いかなる困難をも乗り越える「生き抜く力」そのものにつながると確信し、研究を進めております。

2学期は、生徒たちが「話す力」を含めた表現力を発揮し「主体的・対話的で深い学び」を実感する機会が多くあります。9月11日の生徒会役員選挙では立候補者が学校の未来を自分事として熱くプレゼンし、9月15日から二泊三日の三年生の長崎修学旅行では平和と命の尊厳について現地で深く対話と考察を重ねます。10月17日の合唱コンクールでは個の声を磨き仲間と美しいハーモニーを創り上げ、そして11月2日の開校六十周年記念式典において、本校の歴史と伝統・先輩方の意志を継承し未来へと羽ばたくたくましい姿を地域・社会へと力強く発信してまいります。

六十周年の節目、生徒一人ひとりが自己の可能性を信じ、未来に向かって大きく飛翔できるよう、教職員一丸となって指導・支援に邁進する所存です。二学期もよろしくお願いいたします。